

1 か

あらかじめ征服したアジャ

使 13:1~4 彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい」と言われた。そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。(2~3)

1. 先に征服の答えを受けました (使 13:1~4)

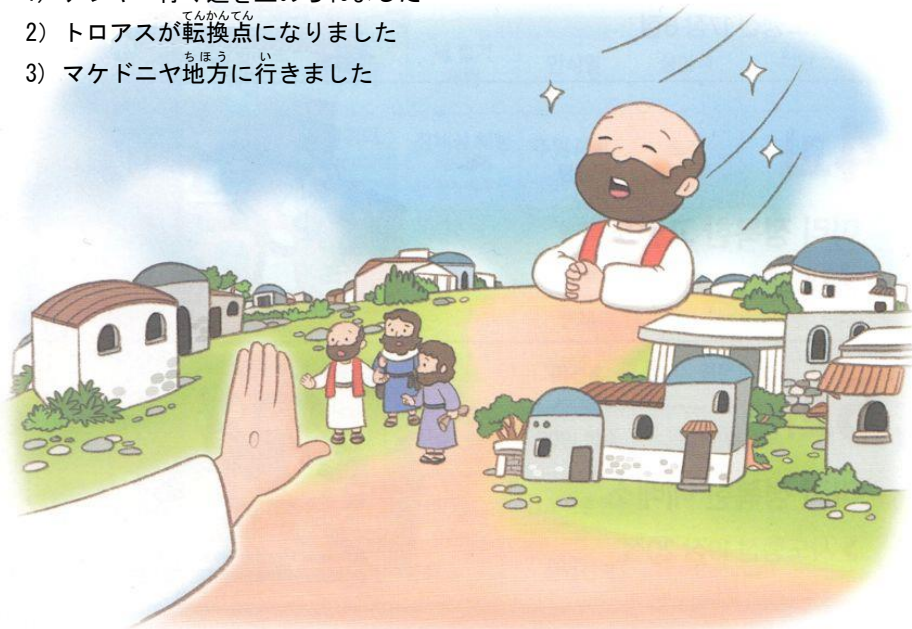
- 1) 聖霊の導きを受けるために祈りました
- 2) 行くべき場所に導かれました
- 3) やるべき働きに導かれました

2. 悪霊の世界をあらかじめ征服しました

- 1) シャーマンを征服しました
- 2) 偽預言者を征服しました
- 3) 総督に福音を伝えました

3. 止められた道は征服の始まりになりました (使 16:6~10)

- 1) アジャへ行く道を止められました
- 2) トロアスが転換点になりました
- 3) マケドニア地方に行きました



聖日みことばのタイトル

聖日聖書箇所

Lined writing area for writing the title and scripture passage.

01

聖日 (主日)

礼拝の準備をして礼拝をささげ
みことばを私の生活に適用する
ことまで、すべてが礼拝です

礼拝の準備のチェック

- 聖書
- 献金
- 筆記用具
- <子どもの祈りの手帳>
- 週報を読む

一週間握るみことば

Grid writing area for holding the word of God for one week.

① **START!** アンテオケ教会はパウロとバルナバ、そしてヨハネ(マルコ)をいっしょに連れて、より広い地域に宣教を始めました。いっしょに行ってみましょう。

② **アンテオケからセルキヤに点線に沿って行ってみましょう**
 パウロとバルナバは、シリア地域のアンテオケから、船に乗ることができる港のある町「セルキヤ」に到着しました。そこからバルナバの故郷(使4:36)であり、最初の目的地キプロス島に、出発しました



③ **セルキヤからサラミスに点線に沿って行ってみましょう**
 キプロス島の「サラミス」は、セルキヤからいちばん近い港のある町です。ここでパウロとバルナバは、ヨハネを連れて、いくつかの会堂でユダヤ人に福音を伝えました。

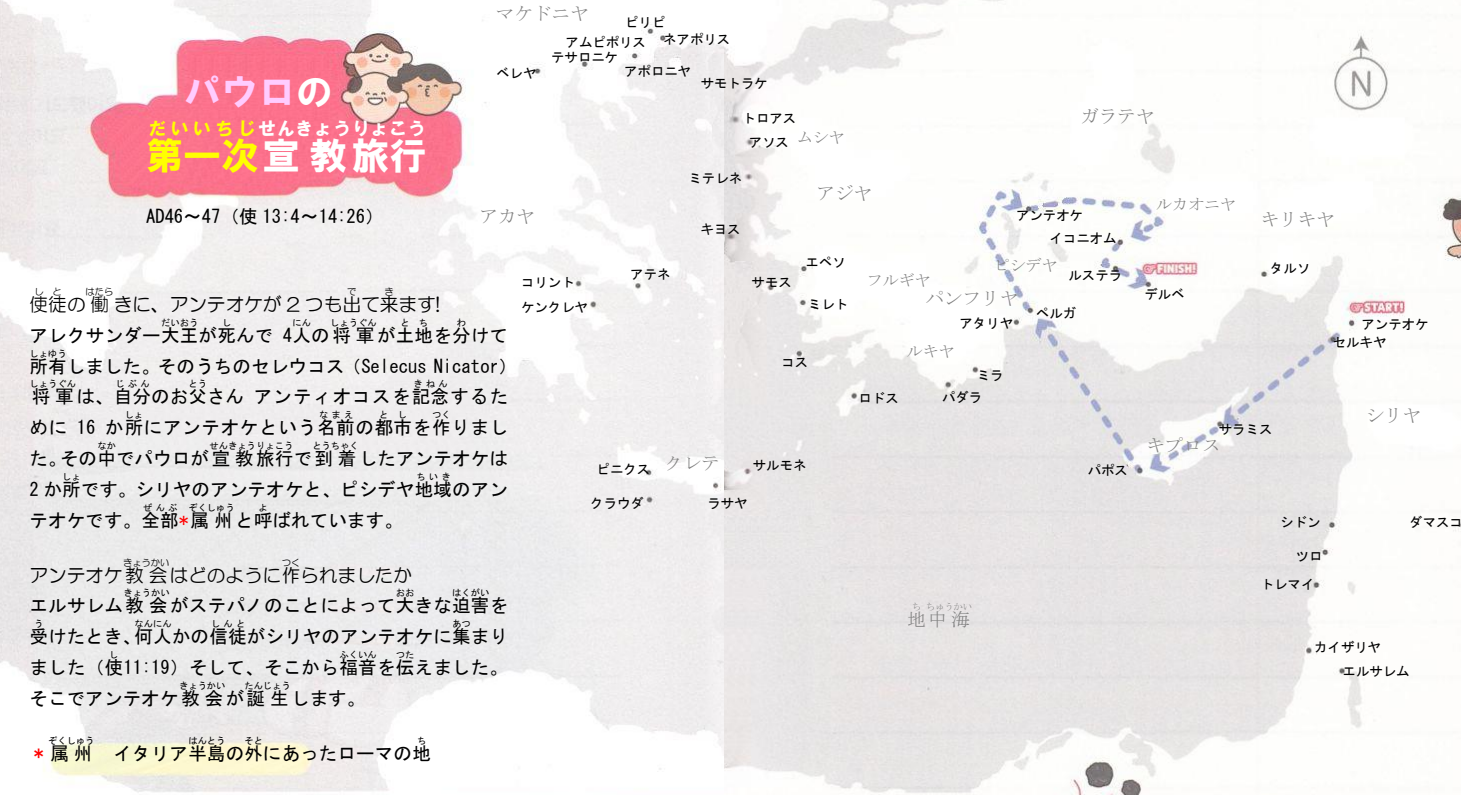
④ **サラミスからパポスに点線に沿って行ってみましょう**
 キプロス島から「パポス」は、シリアの反対側に位置する港のある町です。そこで、パウロとバルナバ、ヨハネは「バルイエス」(または「エルマ」と言われるにせし預言者の目を見えなくさせました。このことによって、その地方の総督セルギオ・パウロが信仰に入りました。

⑤ **パポスからペルガに点線に沿って行ってみましょう**
 船に乗ってパンフリヤのペルガに到着しました。ここで、いっしょについて来ていたヨハネがつかいからと、エルサレムに戻ってしまいました。このことは、第二次宣教旅行に出るときに、パウロとバルナバが争うようになるほど、パウロにとってはがっかりする事件でした。パウロとバルナバは、ここには長く留まることなく、先に進みました。



⑩ **ピシデヤのアンテオケ⇒ペルガ⇒アタリヤ⇒シリアのアンテオケに点線に沿って行ってみましょう**
 パウロとバルナバはみことばの働きができなかった(使13:13~14)に入って、みことばを伝えて、港のある町アタリヤに行って船に乗ってシリアのアンテオケに行きました。アンテオケ教会に到着したパウロとバルナバは、それまでであった働きを報告して第一次宣教旅行を終えました。

⑨ **ルステラ⇒イコニウム⇒ピシデヤのアンテオケに点線に沿って行ってみましょう**
 パウロとバルナバは、デルベから、近道ではなく(ガリラヤのタルソを通る道)ではなく、もういちど、それまで通ってきた道を選びました。その理由は、そこで立てた弟子たちをより強くして、各教会の長老にするためでした。



パウロの だいいちじせんきょうりょこう 第一次宣教旅行

AD46~47 (使13:4~14:26)

使徒の働きに、アンテオケが2つも出て来ます! アレクサンダー大王が死んで4人の将軍が土地を分けて所有しました。そのうちのセレウコス(Seleucus Nicator)将軍は、自分のお父さん アンティオコスを記念するために16か所にアンテオケという名前の都市を作りました。その中でパウロが宣教旅行で到着したアンテオケは2か所です。シリアのアンテオケと、ピシデヤ地域のアンテオケです。全部*属州と呼ばれています。

アンテオケ教会はどのように作られましたか エルサレム教会がステパノのことによって大きな迫害を受けたとき、何人かの信徒がシリアのアンテオケに集まりました(使11:19)そして、そこから福音を伝えました。そこでアンテオケ教会が誕生します。

* 属州 イタリア半島の外にあったローマの地

⑧ **ルステラからデルベに点線に沿って行ってみましょう**
 デルベでも、パウロとバルナバは福音を伝えて、多くの弟子を立てました



⑦ **イコニウムからルステラに点線に沿って行ってみましょう**
 ルステラでは、2つの大きな事件がありました。1つ目、足のきかない人が立ち上がる奇跡を行ったところ、パウロを神だと言いました。2つ目、パウロをアンテオケとイコニウムから追いかけて来たユダヤ人によって、パウロは死んだと思われるまで石打ちにされました。(Ⅱコリ11:25、Ⅱテモ3:11) そののち、パウロはもう一度、町に入って行って、テモテといろいろな弟子たちの信仰をより強くしたあと、バルナバとともにデルベに向かいました。

⑥ **ピシデヤのアンテオケからイコニウムに点線に沿って行ってみましょう**
 アンテオケから追い出されたパウロとバルナバはイコニウムに行き、そこでも会堂に入って行って、福音を伝えました。多くのユダヤ人と異邦人がイエスを信じるようになりましたが、ユダヤ人の迫害が同じくありました(使14:1-7)。それゆえ、それを避けてルステラへ行くしかありませんでした。



START!

パウロはバルナバといっしょに第一次宣教旅行に行ったときに建てたガラテヤ周辺の教会をもう一度訪問しようと決めました。そのとき、バルナバは第一次宣教旅行の途中で、先に帰って行ったヨハネを連れて行くとしたのですが、パウロは反対しました。結局、パウロとバルナバはそれぞれちがう方向に行くことになりました。バルナバとヨハネはキプロス島へ、パウロはシラスを連れてガラテヤ地域のタルソの方向に向かいました。

FINISH!

④ エペソ⇒カイザリヤ⇒シリアのアンテオケに点線に沿って行ってみましょう

パウロは、エペソから船に乗ってカイザリヤ(エルサレム)に着いたあと、エルサレム教会にあいさつをしてから、シリアのアンテオケ教会に向かいました。こうして、パウロの第二次宣教旅行が終わりました。



③ コリント⇒ケンクレヤ⇒エペソに点線に沿って行ってみましょう

パウロ一行は、シリアのアンテオケへ出発しました。このとき、プリスキラとアクラもいっしょでした。ケンクレヤに入って、これから神様に願ひ事があったので、髪の毛をそりました。それから、船に乗って、エペソに向かいました。エペソは、聖霊が以前に止められた(使 16:1) アジヤ地域にあります。とうとう、アジヤに入ったあと、彼らはそこで会堂に入って福音を伝え、多くの弟子が立ちました。パウロはプリスキラとアクラに働きを任せて、アンテオケへ出発しました。

① ピシデヤのアンテオケ⇒タルソ⇒デルベ⇒ルステラに点線に沿って行ってみましょう

パウロとシラスは、第一次宣教旅行のときはちがう道を選びました。ガラテヤ地域を通過して、いろいろな教会をカづけたと、再びデルベに向かいました。パウロは、デルベの近くのルステラからテモテを連れて行くことにしました。



② ルステラ⇒イコニウム⇒ピシデヤのアンテオケ⇒

トロアスに点線に沿って行ってみましょう

パウロ一行は、アジヤ地域に行こうとしたのですが、聖霊が止められました。そこで、ガラテヤとフルギヤ地域の教会、つまり、ピシデヤのアンテオケなどに入っていました。その後、ピシデヤ地方に向かうとしたのですが、また、イエスの霊がそれを許されませんでした。どうすることもできず、ムシヤ地域をすぎ、トロアスに向かいました。そこで、パウロは特別な幻を見ました。パウロは、神様のみこころはそこにあると悟って、マケドニアに福音を伝えることに決めました。



③ トロアス⇒サモトラケ⇒ネアポリス⇒ピリビに点線に沿って行ってみましょう

パウロ一行は、トロアスから出発して、サモトラケとネアポリスを通して、マケドニア地域の中心都市であったピリビに向かいました。そこで、2つの大きなことが起こりました。1つ目「ルデヤ」という女の人に会って、その人の家に留まって伝道しました。2つ目、パウロとシラスが濡れ衣を着せられて監獄に入りました。しかし、そのことによって看守が救われるおどろくべき働きが起こりました。



④ ピリビ⇒アムビポリス⇒アポロニア⇒テサロニケに点線に沿って行ってみましょう

パウロ一行は、ピリビを出発して、アムビポリスとアポロニヤを通り、テサロニケに着きました。そこで会堂に入って福音を伝えました。しかし、ユダヤ人たちが暴動を起こし、彼らを苦しめました。ヤソソがパウロ一行を家にかくまって守りましたが、ヤソソは、そのことによってユダヤ人に引張って行かれました。その後、パウロ一行は、急いで、そこから離れて、ベレヤに向かいました。

⑤ テサロニケからベレヤに点線に沿って行ってみましょう

ベレヤに着いたパウロ一行は、また、会堂に入って行って福音を伝えました。会堂に集まったベレヤの人々は、テサロニケのユダヤ人たちと違って、非常に熱心にみことばを受けました。しかし、テサロニケから追いかけてきたユダヤ人が騒ぎを起こしたので、パウロはシラスとテモテをそこに置いて、ひとりでそこから離れました。



パウロの第二次宣教旅行

AD50~52 (使 15:22~18:23)

地域の名前が多くて混乱します！
ローマは地中海を中心に広い地域を支配しました。そして、属州ごとに総督を任命して治めるようにしました。属州は、普通、大きな地域を分けたので、その中にいろいろな都市がありました。第二次宣教旅行は第一次宣教旅行とちがって、属州についての多くの話があるために、注意して見ましょう。

聖書の中の「アジヤ」はどこを示しているのでしょうか？
聖書ではアジヤは「太陽が昇る国」という意味のアッシリヤ語「アス」(asu) という単語に由来します。もとは、ルデヤ地方の都市の名前でしたが、ローマの属州のひとつを示すことばになって、さらにいろいろな属州が属している*「ソマリヤ」として拡大しました。そこは、いまは「トルコ」があります。

*ソマリヤ アジヤ、ピシデヤ、カパドキヤ、キリキヤ、ガラテヤ、ルカオニア、ルキヤ、ルデヤ、ムシヤ、パンフリヤ、フルギヤ、ポントなどの属州が属しています。

⑦ アテネからコリントに点線に沿って行ってみましょう

パウロは、そこでも会堂に入って行ってみことばを伝え「プリスキラ」と「アクラ」に出会いました。そして、テテオ・ユスト、会堂管理者クリスポ、また、他の会堂管理者ソステネなどが福音を信じるようになりました。そのような中、シラスとテモテがマケドニアの教会から戻り、良い知らせを持って来ました。パウロは、そこで1年半以上留まって、休みなく働きを続けました。そのことは、テサロニケ人への手紙 1, 2 に記録されています。

⑥ ベレヤからアテネに点線に沿って行ってみましょう

ユダヤ人々を避けて、アテネに着いてパウロは偶像がいっぱいあるのを見ました。心を痛めて、哲学者と異邦人に福音を伝えました。その後、パウロは自分といっしょにいるようになったシラスとテモテを(1テサロニケ 3:1~2) マケドニアの教会に送りました



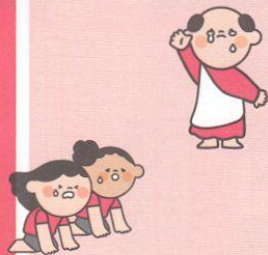
START!

パウロは、第一次、第二次宣教旅行のときに建てられた教会を回って見るために、第三次宣教旅行に出発しました。第一次、第二次を思い出しながら、パウロの第三次宣教旅行は自分で線を引きましょう。

FINISH!

⑤ミレト⇒コス⇒ロドス⇒パタラ⇒ツロ⇒トレマイ⇒カイザリヤ⇒エルサレムを順番に線を自分で引いてみましょう

パウロ一行はエルサレムに行く道で、各教会に行つて、涙で分かれのあいさつをしました。エルサレムに行けば危険だということばを聞いたのですが(使21:4、10~12)パウロと彼の一行は、結局エルサレムに向かいました。そして、教会に到着して、パウロの第三次伝道旅行は終わります。



①アンテオケ⇒タルソ⇒テルベ⇒ルステラ⇒イコニウム⇒ピシデヤのアンテオケ⇒エペソを順番に線を自分で引いてみましょう

パウロはガラテヤとフルギヤ地域に建てた教会を回りました。そしてアジア地域のエペソに向かいました。そして第三次宣教旅行の大部分はエペソで過ごしました。(約3年)福音を伝えて教える働きは、簡単ではありません。特にパウロのエペソの働きは、大きく4つの事件に分けて見ることができます。次の質問に答えながら内容を調べてみましょう。

パウロの第三次宣教旅行

AD52~57 (使 19:1~21:16)

パウロは、手紙をいつ、どこで書いたのでしょうか

パウロはエペソでの働きを終えるとき「コリント人への手紙第一」を書きました。そして、テモテとエラストをマケドニア(ピリビ、テサロニケ、ベレヤなどの都市)とアカヤ地域(コリントがあるところ)に派遣するとき、手紙をいっしょに持って行くようにしたのですが、その手紙がコリント人への手紙第一です。そして、パウロはコリントに着く前、マケドニア地域のピリビにいたとき、テスからコリント教会についての知らせを聞きました。その答えとなる手紙が「コリント人への手紙第二」です。また、コリントにいるときに「ローマ人への手紙」を書きました。



Q.ここに登場する弟子たちはみんなて何人ですか

パウロはエペソでバプテスマのヨハネの教えに従う弟子たちに出会いました。まだイエス様について知らなかったこの人々に、福音を伝えてバプテスマを授けました。

参考：使徒19:7

パウロが弟子たちを別立てて教えた場所はどこですか

パウロはエペソの会堂で3か月間、福音を伝えて弟子たちを別と呼んで教えました。2年間、続けたら、アジア地域にいたユダヤ人とギリシヤ人がすべて福音を聞くようになりました

参考：使徒19:9

Q.パウロの奇跡をまねしようとして、やつつけられた人はだれですか

パウロが働きをしていたエペソには、魔術を行う人がたくさんいました。その人々に神様はパウロを通して、大きな奇跡を見せられました。結局、人々は偽物のやり方を捨てて、福音を信じて自分の持っていた魔術の書物をすべて燃やしました。

参考：使徒19:13~16

Q.エペソで騒動を起こした人はだれですか

エペソで福音の美が多く結んだので、偶像を作っていた人々の収入がだんだんなくなってしまいました。彼らは怒って、集まって、パウロがいたツラノ講堂で大きな騒ぎを起こしました。

参考：使徒19:24~28

④トロアス⇒アソス⇒ミテレネ⇒サモス⇒ミレトを順番に線を自分で引いてみましょう

これ以上、遅くならないと、パウロ一行はアソスから船に乗ってミテレネとサモスを通って、ミレトに行きました。そこでエペソの長老たちを呼んで涙でみことばを伝えました。(使 20:17~18)



③コリント⇒ベレヤ⇒テサロニケ⇒アポロニヤ⇒アムピポリス⇒ピリビ⇒ネアポリス⇒トロアスを順番に線を自分で引いてみましょう

パウロ一行はコリントから船に乗ってシリアを通ってエルサレムに行こうとしました。しかし、ユダヤ人がパウロ一行に対する陰謀を企てていると聞いて、来た道を戻って行くことにしました。トロアスで、パウロ一行はみことばを伝え、ユテコという青年を生かしました。

②エペソ⇒トロアス⇒ネアポリス⇒ピリビ⇒アムピポリス⇒アポロニヤ⇒テサロニケ⇒ベレヤ⇒コリントを順番に線を自分で引いてみましょう

エペソの働きを終えたパウロ一行は、第二次宣教旅行のときにたどった道を通ってマケドニア地域の教会を回りました。そして、弟子たちを指導したあと、ギリシヤ地域(アカヤ地域)つまり、コリントに到着しました。ここで3か月間を過ごして働きました。パウロはピリビ人への手紙、コリント人への手紙第二、コロサイ人への手紙、ローマ人への手紙を書きました。

